

大阪大学 薬友会だより

〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6 大阪大学薬学部内 大阪大学薬友会

薬友会会長ご挨拶



薬友会会長
萬年 成泰(9期)

昨年は、東日本大震災という未曾有の災難に見舞われ、被災地の方たちは大変な苦勞をしてこられました。私が先日お会いした方も、津波でご主人が行方不明になられ、そのご両親も亡くなりました。家も商店も全壊しました。しかし、自力再生を目指して子供たちと共にいち早く立ち上がろうと動き始められました。その過程で本当の力(現場力)になったのは、これも国や自治体ではなく、地域や遠方の個人あるいは小規模なグループでした。このお話を聞いて、これらの方々には本当に頭が下がりました。

一方、3年にわたり数回ずつ放映されたテレビドラマ坂の上の雲が、昨年暮れに終わりましたが、司馬遼太郎さんの原作も含め、日本人の素晴らしさを改めて感じました。江戸時代からの非常に高い教育水準、倫理観に加え、植民地化の危機を、初めて自分たちのものになった日本という国の危機と理解して、特に若い人々がそれぞれの立場から力を出し切った時期であったように思います。また、第2次世界大戦の敗戦から信じられないような速さで日本を立て直したのも、明治維新と同様、若い方たちでした。

今はまた、日本としていろいろな意味で危機的状況になりつつあると言われておりますが、上の大地震の例からみてもこのような状況になると、その対応能力や、思いやりや、判断力などが発揮される日本人個々の優れた特質は健全であるように思います。これらの特質を以て、若い方達が存分に力を発揮してくだされば、現在の第三の危機ともいべき状況を乗り越えていけるのではないのでしょうか。大いに大いに期待しております。

第97回薬剤師国家試験、薬学科(6年制コース) 一期生23名全員合格!

薬友会のホームページが昨年度より新しくなりました。皆さん、是非とも覗いてみてください。
(大阪大学薬友会 <http://www.phs.osaka-u.ac.jp/homepage/yaku/>)

阪大薬友会 検索



研究科長ご挨拶



薬学研究科長・薬学部長
堤 康央 (39期)

薬友会会員の皆さまにおかれましては、益々ご清祥のことと存じます。この4月1日付けで薬学研究科長・薬学部長を拝命致しました。どうぞ宜しくお願いを申し上げます。早速ではありますが、薬学部・薬学研究科構成員を代表致しまして、近況報告させていただきます。

ご承知のように、薬学教育改革により、大阪大学薬学部は平成18年度に、医療薬学領域において高度な薬剤師の養成を目指した6年制学科(薬学科)と、ヒトの健康環境を考究し、次代を担う創薬／育薬あるいは環境薬学研究者等を育成しようとする4年制学科(薬科学科)に再編成されました。この3月に、6年制学科(薬学科)の1期生が巣立っていきましたが、新卒者(23名)全員が第97回薬剤師国家試験に合格致しました。この合格率100%という快挙は、1期生の皆さんの頑張りは勿論のこと、事前学習やCBT、OSCE、長期実務実習(病院実習・薬局実習)等における関係の皆さまのご指導・ご尽力の賜であり、この場をお借りして御礼を申し上げます。2期生以降の皆さんが後に続かれることを切に祈念しています。

また、平成24年度の概算要求事項として文科省に申請しておりました、創成薬学専攻博士前期課程の入学定員の変更(15名増員:60名→75名)、創成薬学専攻博士後期課程および医療薬学専攻博士課程の設置が認められました。教育面では引き続き、全国立大学薬学部14校を取り纏め、本学が事業実施の主体となっている文科省特別経費「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発(平成22~27年度)」を推進すると共に、本年4月より、文科省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「地域・職種間連携を担うがん専門医療者養成(平成24~28年度)」にも参画しています。ご承知のように昨年、産官学連携、部局横断的に、グローバルな感覚を持った次代のリーダーを養成しようとする、博士課程教育リーディングプログラムが文科省より公募されました。大阪大学では、オールラウンド型「超域イノベーション博士課程プログラム」と複合領域型(生命健康)「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」の2件が採択され(平成23~最大29年度)、薬学研究科も両プログラムに参画しています。なお、文科省科学技術人材育成費補助金テニュアトラック普及・定着事業(若手研究者の自立的な研究環境整備促進)「生命科学研究独立アブレンティスプログラム(平成20~24年度)」はいよいよ最終

年度を迎えますが、引き続きご支援を賜りますよう、お願いを申し上げます。

研究面では、大阪大学として、文科省最先端研究開発戦略的強化費補助金(最先端研究基盤事業)「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備(平成22~24年度)」に加え、新たに文科省研究開発施設共用等促進費補助金(創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業)創薬等支援技術基盤プラットフォーム(制御拠点)「大型創薬研究基盤を活用した創薬オープンイノベーションの推進(平成24~28年度)」が採択され、薬学研究科が中心となって、部局横断的、異分野融合的な創薬研究を推進しています。またご承知のように最近、大阪府・大阪市・京都府・京都市・兵庫県・神戸市は、関西イノベーション国際戦略総合特区に指定されましたが、この中で薬学部・薬学研究科もアカデミア創薬、レギュラトリーサイエンス等の推進や人材育成等に関して取り組んでいます。

一方で主な教員人事としては、本年3月末日で田中徹明教授(薬品製造化学分野)が定年退職され、また昨年10月に、大久保忠恭先生が高分子化学分野の教授に就任されました。また、懸案事項となっています、耐震強度が低く、老朽化が進んでいる薬学部1号館(昭和50年に蛍池学舎から現在の吹田キャンパスに移転してから35年以上が経過)の耐震改修工事の件ですが、引き続き、概算要求事項として申請準備を進めています。なお薬学部1号館の大講義室(4階)は、沢井製薬株式会社さまのご支援で耐震改修工事後に生まれ変わる予定です。加えて、本年より、マルホ株式会社さまのご支援で、薬学部・薬学研究科の学生の海外派遣をさらに推進することになっており、併せてご報告申し上げます。最後に、薬友会主催の平成23年度大阪大学薬学部卒後研修会(7回で、のべ512名参加)と薬友会の皆さまにご協力頂いた平成23年度大阪大学大学院薬学研究科公開講座「くすりと医療」(2日間で、のべ197名)も無事に終了しました。重ねて御礼を申し上げます。

前述しましたように、いよいよ、4年制学科(薬科学科)の学生が進学する創成薬学専攻(前期[修士]:2年間、後期[博士]:3年間)、6年制学科(薬学科)の学生が進学する医療薬学専攻(4年制の博士課程)のスタートとなります。諸先輩方が築きあげてこられた伝統と実績のもとに、他とは違う大阪大学薬学部・薬学研究科らしさを追求し、次代のリーダーを育成・輩出できる、創薬研究と医療人教育をさらに磨き上げ、加速できればと思っております。何卒宜しくお願いを申し上げます。

12期・古希の同窓会

今回の十二期同窓会は、古希を迎えた記念として、我々の原点に戻るとい意味で母校を訪ねました。前日の6月30日(木)に南千里のホテルに集い、逝去者に黙祷を捧げた後、歓談・笑いの中にエネルギー溢れる病氣自慢に花が咲き、カラオケでは思いもかけず芸達者が多数居ることが判明しました。

7月1日(金)は朝から吹田キャンパス薬学研究科を訪ねました。現役教授の中川晋作先生による阪大発展の歴史、薬学部の変遷、薬学6年制などについてパンフレットやビデオ、スライドを交えた講義を受けました。ほぼ50年振りの大学での講義は蛍池の古い学舎での日々を思い出し、懐かしく、最近の阪大の勉学環境の充実振りに感心したり、うらやましく思ったり、滅多にない経験でありました。中川教授の話が非常に素晴らしく「大学でこんな楽しい有意義な講義を受けたの初めてヤ」との発言まで飛び出しました。十二期生は製薬企業・病院・薬局・大学など様々な職種に就いていましたが、そのそれぞれの立場から薬学6年制問題に対する意見が飛び交い、時間が経つのも忘れて熱い議論が交わされました。阪大生協から運んで頂いた美味しいサービス満点の遅い昼食をとり解散しましたが、その後、緑多く整えられた豊中キャンパスを訪れた方々もあり、原点を大いに満喫しました。

十二期生は逝去者4名を含めて総数55名で、そのうち25名から

眞弓 忠範・邦子

出席との返事を頂きましたが、直前に体調不良、介護などの事情があり、実際の参加者は23名でした。東日本大震災で影響を受けた方々も「関西へ元気をもらいに来た」と参加してくれました。今回出席が叶わなかった人々にも、出席者の笑顔の写真と最新の住所録を届けました。次回(2年後)の幹事は長峯、魚森、服部の三氏に決まり「楽しみに元気に過ごそう」を合い言葉に解散しました。

最後になりましたが、薬学研究科・中川晋作教授ならびに阪大生協・山本敬二様に厚く御礼を申し上げる次第です。



16期 同窓会

16期は昨年10月15日サウスゲートビル「ロクス」にてクラス会を行いました。参加者は20名。

最下段の集合写真の前列左より

山田、柴地、岩田、岡上、又野、八田、山中すみへ

中段、米虫、森本、原田、青山、橘和、小野、山中

上段 大藪、相坂、真野、岡本、木島、北中

また、16期は毎年17期と合同で東京同窓会を行っています。昨年10月1日「メゾン・セルバンテス」(麴町)で行いました。参加者は11名で16期は恩地、大江、久岡、山中、山中すみへで17期からは中西、藤井、阿部、奥本、遠藤、北村でした。

原田 昌弘



16期17期 合同同窓会

2011年10月1日 薬学部16期17期合同 東京地区同窓会開催

東京地区の16期と17期は以前から毎年、合同で同窓会を開催してきています。対象会員37人で、通常は15人以上の参加があります。これまでは、現役の人も多かったこともあり、平日の午後で開催して来ましたが、今年は初めての試みとして、土曜日のお昼に開催して、市ヶ谷のスペイン政府の文化センターの中の「メゾン・セルバンテス」にてスペイン料理とワインを楽しみました。

残念ながら日程の都合の悪い方が多く、11名の参加にとどまりましたが、少人数だけに顔なじみの出席者の近況報告では、恒例の孫と健康の話以外に仲間の消息や、薬業界、薬学会の近況へと、話題がとどまることがありませんでした。これからも毎年の開催が続けられることを願っております。参加者は11名で16期は恩地、大江、

中西 俊秀

久岡、山中、山中すみへ、17期からは藤井(敏)、阿部、奥本、遠藤、北村、中西でした。(集合写真には11人中10人が写っています)



18期 同窓会

北川 善啓

4月15日今年も多くの皆さんにご参加頂き楽しく滞りなく開催できました事を嬉しく思います。参加者の皆さんに話題提供をお願いしているのですが、今年は日本中のマンホールの写真を撮り続けた池上さんから面白いお話を頂きました。池上和子さんのコメントです。

私より一足早くマンホールのデザイン収集を始めていた近所の友人と散歩していた時、豊中市のマンホールを見て、「どうして豊中はワニなんだろう?」と言いました。その時、30年近く前、阪大入学直後のオリエンテーションで石橋学舎構内を案内してもらった際、理学部の教室で見たマチカネワニを思い出しました。それまで化石と言えば木の葉が刻まれている石ころしか見たことがなかったので、5mもある巨大な化石にはびっくり、感動でした。(何人かの同級生に聞いてみても覚えている人がほとんどいないのが残念!)大阪大学総合科学博物館ができ、陳列されているという新聞記事を見たときは早速見に行きました。その後、カラーのマンホールも時々見かけましたが、色が褪せて綺麗なものがみつかりません。で、市の下水道局に行くと、カラーマンホールの設置場所を尋ねたところ、分厚い図面集を持ってきてくれ、いつ、どこに設置したかを詳しく教えてくれました。そして阪急岡町駅で綺麗なものを撮ることができました。市によっては、「10年くらい

前に工事したけど、当時の工事した人はもうおらんから解らん」というところも多々あります。一般的にはどこの役所でも親切に対応してくれ、市民でもない他府県の者に悪いなと恐縮します。問い合わせせて、お礼にお菓子を送ったところ、地元で採れたリングをお歳暮にいただいて、とその後お付き合いしている方もおられます。1995年前後、平成の大合併で、市町村数が半減しましたが、今後デザインマンホールの数も減るのではとちょっと残念な気がします。

マンホールに興味をお持ちの方は連絡ください 池上 和子
ikegami-k@hotmail.co.jp



39期生 プチ同窓会

39期生 プチ同窓会出席メンバー

2011(平成23)年12月29日(木)に、薬学科39期生恒例の「プチ同窓会」が開催された(毎年、この時期に開催しています。参加者は10名~20名前後です。是非にご参加下さい!)。今回は、製薬化学科の同期仲間を含め、13名が集まった。2012(平成24)年4月から、同級生の堤康央くんが研究科長に就任するとの情報をキャッチし、その激励と冷やかしを兼ねて大いに盛り上がった。1次会会場は、これまた同級生の分子生物学(生化)分野教授の水口裕之くんの知り合いのお店で、お得な値段でたらふく食べることができた。

今回の参加者の同級生の中に(出世頭)、某有名製薬会社の部長さんがいたので、「ゴチになります」状態で臨んだが、ワリカンどころか、彼だけ1次会の料金を払い忘れるという、笑えない結末となっていた。しかし、同級生は同級生である。青春時代とともに、謳歌し、泣き笑い、時には喧嘩し、悪戯しあった仲間である。みんなため口で、「堤、お前、がんばれや!水口、何しとんねん。」といった大学時代に帰ったような何とも心地の良い会話が続いた。20年以上も前の大学時代にタイムスリップして、気のおけない友人たちと会話するのは本当に楽しいものである。振り返れば、しょもない、たわいのない話ばかりであったが、童心に帰って夢中に駄弁っていた。2次会も一次会のメンバー全員に加え、仕事の関係で遅れてきたメンバーが加わり、時間の経つのも忘れてしまった感覚で、気がついたら終電間際であった。帰りの電車の中からの絵文字付きの携帯メールで、「来年も必ずプチ同窓会で会いましょう。」と大学生のノリで確認しあって、何とも惜しい気がしたが完全にお開きになった。その時には既に日付が変わっていた。

我々同級生のように40代前半になると、社会的な立場や家庭での

立場があり、結構がんじがらめでストレスを抱えていたりする。それがこのプチ同窓会によって、大学時代にタイムスリップしたりできて、気持ちのリフレッシュになる。気分的にも充電ができて、「本当に元気ももらえた。」と感じる同級生も多い。

大学時代にタイムスリップすることにより、その当時の1学生としてどんな授業を望んでいたか、どんな研究活動を望んでいたか、すばらしかったことは、直すべきだと思ったことは、と考えていけば方向性は見えてくるのではないだろうか、と、堤くん、水口くん、田熊一徹くん<薬物治療学(複合)>に、まさに言いたい放題で、檄を飛ばさせてもらった。我々的には、この「プチ同窓会」も大いに役立つのではないだろうか、と期待しているのだが。。。いずれにせよ、我々同級生は、これからも阪大薬を全力で応援するつもりである。敢えて強い言葉を用いたのは、残念ながら欠席した山口進康くん<衛生・微生物学(衛生)>を含め、母校に残るメンバーへの我々同級生、同志への熱いメッセージであり、いつまでも一緒に歩もうと想う、強い気持ちでもある。一緒に歩み続け、羽ばたきたい。なお、大学時代にタイムスリップした同級生たちの写真を右記に示す。



45期 同窓会

新谷 紀人

昨年の8月13日土曜日、西梅田の居酒屋で大阪大学薬学部45期生の同窓会を行いました(幹事:富永、新谷)。国内外でいろいろなことが起きた2011年。このような時こそ同期の親交を確認し、深めあう必要があるのでは?ということと突然の日程調整になりましたが、男女14名ずつ、計28名にご出席をいただきまして旧交を温めることができました(日程が合わず不参加となってしまいました方々には大変申し訳ありませんでした)。

卒業して10数年、結婚に出産、転職や留学などのライフイベントをこなしたorこなしつつある年代ですが、容姿も体調もまだまだ20代と思うほど!貸切の店内では、美味しい料理もほどほどに、昔話はもちろんのこと、それぞれの近況報告にも花が咲きました。本会をきっかけに新たな交流が始まったという話も耳にしております。まさに昨年を表す漢字、「絆」を感じることができた会になったのではないかと思います。

なお今回、幹事の不手際で連絡が届かなかった同級生もいらっ

しゃるかと思えます。ここにお詫びを申し上げますと共に、本記事を御覧になった45期の同級生方は是非とも私宛(shintani@phs.osaka-u.ac.jp)にご連絡をお願いします(facebookで探して頂いても結構です)。今回は人数・日程ともにもう少し頑張ってみます。皆で盛り上がりましょう!



濱 堯夫先生の傘寿を祝う会開催

22期生 河合 裕一



2011年11月6日、濱堯夫先生(2期)の傘寿を祝う会(大阪大学薬学部 微生物薬品化学教室、神戸学院大学 栄養学部 栄養化学教室および神戸学院大学 薬学部 第七研究室共催)が、先生が学長を2期(6年間)務められた神戸学院大学のレストラン「ジョリポー」で開催されました。先生のお人柄を慕い、100名を超える門下生が集まり、大阪大谷大学薬学部長 田中慶一先生(13期)の司会のもと、真弓忠範先生(12期)並びに3教室の代表(山元弘(18期)、玉木七八(13期)、中川晋作の3先生)による挨拶をもって、お祝いの会が始まりました。門下生代表による挨拶、また歓談の時間には、皆が少しでも先生とお話をするべく、先生と奥様のテーブルに長い列を作りました。皆で先生の80歳の誕生日を祝うとともに、同窓生達と懐かしい思い出話を花を咲かせているうちに、あっという間に3時間が経過しました。式の後半、司会を交代した中川晋作先生による祝電の披露の後、先生と奥様に記念品と花束を贈呈。最後に、濱先生の多くの思い出を盛り込んだお話を伺って、盛会のうちに閉会となりました。先生、いつまでもお元気で。再会を楽しみにしています。

松本光雄先生の傘寿を祝う会(あおき会)開催

38期生 宇都口 直樹



1951年の赤ワイン(60年もの)と1991年の白ワイン(20年もの)で、①60+20=80、②「紅白」でおめでたい、というダブルミーニングとなります。

小生(38期)は、博士修了後、当時、松本光雄先生が主宰されていた昭和薬科大学薬剤学研究室に助手として採用して頂き、先生が停年されるまでの5年間、先生の元で従事させていただきました。その時のエピソードとして、松本先生はいつもお洒落なネクタイ、びしっとしたスーツ姿で講義されることや、試験監督中はずっと立って監督され、一度もお座りにならないことなどを披露させていただきました。今もお洒落なネクタイ、びしっとしたスーツで元気でいらっしゃる姿は全くお変わり

2011年11月20日、薬剤学研究室の同窓会(あおき会)で松本光雄先生(2期・あおき会会長・昭和薬科大学名誉教授)の傘寿のお祝いを大阪ガーデンパレスで開催いたしました。

真弓忠範先生(12期・3代目教授・大阪大学名誉教授)、澤井弘行先生(11期・沢井製薬株式会社 代表取締役会長)からお祝いの言葉をいただきました。

歓談後、傘寿のお祝い品として、先生のお好きなお酒が贈られました。

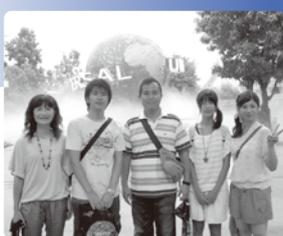
ありません。

その後、同窓生からの異動報告や、現役学生の自己紹介がありました。同窓生は様々な分野で活躍しており、あおき会で同期生のみならず先輩、後輩が定期的に顔を合わせ、親交を深めることができるすばらしさを感じました。またあおき会の絆の太さも再確認いたしました。

松本先生にはいつまでもお元気で過ごしていただき、この先、米寿(88歳)、白寿(99歳)もあおき会でお祝いしたいと思います。

近況報告

卒業生の方々の近況をご紹介します。



日東電工株式会社
仲野 善久 27期(工学)

1981年に修士課程を修了後、日東電工に入社して早や30年が過ぎました。入社後一貫して経皮吸収剤の開発に従事し幸運にも2001年に喘息治療用パッチ剤(ホクナリンテープ)の開発で日本薬学会 創薬科学賞を受賞させていただきました。

2009年にメディカル事業部からコーポレートR&D部門に異動し、現在

はアジア地域のR&D拠点となる「日東電工アジアテクニカルセンター」(所在地はシンガポール)に単身赴任しております。また大阪に拠点を置くライフサイエンス研究センターも兼務しておりシンガポールと日本を行き来する生活を送っています。

シンガポールは食べ物もおいしく非常に住みやすい国で、日々の生活をエンジョイしています。今後もグローバルな視点からQOL向上に役立つ製品開発に貢献していきたいと考えています。

(写真は家族がシンガポールに遊びに来た時にユニバーサルスタジオシンガポールで撮影したものです。)

大日本住友製薬株式会社 執行役員
Sunovion Pharmaceuticals Inc. Executive Vice President, Corporate Strategy
池田 善治 28期(生薬)



2012年1月1日付で、米国子会社 Sunovion Pharmaceuticals Inc. に転勤になりました。Sunovion社の2011年度売上は約1400M\$、従業員は約2300名で、医薬品の研究開発、精神神経系および呼吸器系医薬品の製造販売を行っており、本社はMassachusetts州のMarlboroughという自然

豊かな街にあります。

豊かな街にあります。

当方は、事業戦略策定、M&Aや製品の導出入部門、および製品や臨床開発品目の事業性評価を行う部門を担当するとともに、経営陣の一人として、多忙な毎日を過ごしています。赴任後2ヶ月が過ぎ、引越、日々の生活の立ち上げ、日本とは異なる種々の仕事の進め方に戸惑いながらも、20年ぶりの米国生活に徐々に慣れてきた感じです。

今春には家内も米国に移住予定で、ドライブ、旅行、レストラン探索、スポーツ観戦、美術館めぐりなど仕事以外の生活の質も向上していきたいと思っています。

富山大学大学院医学薬学研究所(薬学)教授
矢倉 隆之 32期(合成)



大学院博士課程修了後、京都薬科大学を経て、2004年3月に富山に移りました。赴任当初、「最近雪が少なくなった」とよく聞かされていたのですが、ここ数年は雪の多い年が続く、特に今年は26年ぶりの大雪となりました。雪が降ると子供たちは大喜びですが、おとなは…。家族みんなで富山の雪

を楽しんで(?)います。

を楽しんで(?)います。

富山大学薬学部は6年制55名、4年制50名の定員です。研究室配属は3年次の12月に行なわれ、各研究室に両学科とも1名以上配属されます。両学科生間で考え方が徐々に違って来たように感じますが、みんなまじめで、熱心に研究に取り組んでいます。

富山は大阪とともに昔から薬の都と呼ばれています。二つの薬都を結び、これからの薬学の発展に少しでも貢献できるよう努力したいと思っています。

国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部 室長
山田 雅巳 32期(衛生)



修士課程まで薬学部に在籍していました。その後、微研で医学研究科博士課程の4年を過ごし(ここは近藤先生や那須先生と同じです)、1990年の4月に当時の国立衛生試験所に赴任しました。「女の子は大学院に行ったら就職がない」といわれていた時代に、博士の学位を持っていることが条件の就職(国家公務員研究職の選考採用)があったのは驚きでした。途中、旧科学技術庁

の長期在外研究員として英国の研究所に留学させていただいた1年間を含め、早いもので東京に来て22年たちました。私のいる変異遺伝部は、食品、医薬品、化学物質などの安全性の中でも、遺伝毒性を調べる部署です。大学にこの分野を扱う研究室が少ないので、職員は部に来てから仕事内容を勉強していくことになります。入って7~8年くらいまで(でしょうか…)は、いわゆる研究者としての仕事をしていますが、それ以降は、厚生労働省や内閣府の委員を務めたり、所属する学会(私の場合、日本環境変異原学会)の運営に関わったり、シンポジウムの事務局をしたり…と、研究に専念できなくなってきました。それでも論文が評価の対象になり、さらに、4月から給料が1割近くカットされるなど、割に合わないという思いがありますが、運に恵まれて得たこの職で、定年までのあと10年は国民の健康のために働かせていただきます。

の長期在外研究員として英国の研究所に留学させていただいた1年間を含め、早いもので東京に来て22年たちました。私のいる変異遺伝部は、食品、医薬品、化学物質などの安全性の中でも、遺伝毒性を調べる部署です。大学にこの分野を扱う研究室が少ないので、職員は部に来てから仕事内容を勉強していくことになります。入って7~8年くらいまで(でしょうか…)は、いわゆる研究者としての仕事をしていますが、それ以降は、厚生労働省や内閣府の委員を務めたり、所属する学会(私の場合、日本環境変異原学会)の運営に関わったり、シンポジウムの事務局をしたり…と、研究に専念できなくなってきました。それでも論文が評価の対象になり、さらに、4月から給料が1割近くカットされるなど、割に合わないという思いがありますが、運に恵まれて得たこの職で、定年までのあと10年は国民の健康のために働かせていただきます。

丸紅株式会社 機能化学品部
藤原 澄久 39期(生化)



1993年に博士前期課程(代謝)修了後、丸紅株式会社にて、食品添加物や化粧品原料等の機能化学品のトレード、バイオエタノール・光触媒等環境関連の新事業開発に取り組み、現在は、植物を一定の価格・品質にて周年安定供給可能とする植物工場を核としたアグリフードビジネスの事業化を推

進しております。植物を効率良く生産する為には、微生物を含む土壌・水・光・二酸化炭素濃度等を適正に制御することが重要ですが、大学4年時の微生物・大学院時代の植物プランクトンの研究経験が、植物工場の栽培ソフトの開発に大役立ちました。今のところ、植物工場は、食材としての野菜の量産栽培が事業の中心ですが、ファイトケミカルや亜鉛などのミネラル成分を選択的に大量に含む植物や、生薬原料植物の栽培研究も行っており、将来的には、天然の健康補助食品の安定生産拠点として予防医療の分野に貢献したいと考えております。

進しております。植物を効率良く生産する為には、微生物を含む土壌・水・光・二酸化炭素濃度等を適正に制御することが重要ですが、大学4年時の微生物・大学院時代の植物プランクトンの研究経験が、植物工場の栽培ソフトの開発に大役立ちました。今のところ、植物工場は、食材としての野菜の量産栽培が事業の中心ですが、ファイトケミカルや亜鉛などのミネラル成分を選択的に大量に含む植物や、生薬原料植物の栽培研究も行っており、将来的には、天然の健康補助食品の安定生産拠点として予防医療の分野に貢献したいと考えております。

大阪大谷大学薬学部実践医療薬学講座 講師
池田 賢二 40期(薬剤)



現阪大名誉教授眞弓忠範先生の元、薬学研究科修士課程を修了した時から、いつのまにか18年が経ってしまいました。私は、まず平成6年に阪大病院薬剤部に入局致しました。多くの臨床経験を得ることができた本職場では、薬学的に薬物療法を判断する重要性を学ぶことが出来ました。この

時の経験から、特にがん化学療法での副作用管理と妊娠時薬物療法における全般的な情報量の少なさに直面し、それらを改善したい思いが心に根付きました。情報量の少ない中、薬物療法に発生する問題点を解決できる臨床薬剤師を目指し、かつ育てたいがために、おそらくは必然的に大学教員の道を選びました。平成18年より大阪大谷大学薬学部へ赴任し、現在は八尾市立病院非常勤薬剤師を兼任しております。「個人に宿る基礎と臨床」を夢見て、学生とともに臨床薬剤師の有るべき姿の具現化に日々取り組んでいる現状です。

時の経験から、特にがん化学療法での副作用管理と妊娠時薬物療法における全般的な情報量の少なさに直面し、それらを改善したい思いが心に根付きました。情報量の少ない中、薬物療法に発生する問題点を解決できる臨床薬剤師を目指し、かつ育てたいがために、おそらくは必然的に大学教員の道を選びました。平成18年より大阪大谷大学薬学部へ赴任し、現在は八尾市立病院非常勤薬剤師を兼任しております。「個人に宿る基礎と臨床」を夢見て、学生とともに臨床薬剤師の有るべき姿の具現化に日々取り組んでいる現状です。

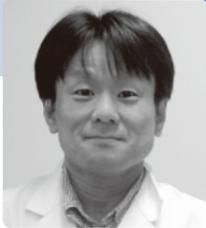
国立循環器病研究センター 研究所 血管生理学部
橘 敬祐 44期(蛋白)



私は今年の3月末に大阪大学大学院薬学研究科 生命情報解析学分野(旧 蛋白情報解析学分野)助教の職を退職し、4月より国立循環器病研究センター 研究所 血管生理学部 血管病診断研究室長として勤務しております。

現在私は、日本人の死因の上位を占める心不全や脳梗塞の原因となる動脈硬化症の発症のメカニズムの解明や、治療法の開発を目指して研究に取り組んでいます。

大阪大学薬学部には、学生・教員として18年間の長きにわたりお世話になり、誠にありがとうございました。今後は、大阪大学で学んだことを生かし、循環器病疾患の克服を目指して頑張っていく所存でございます。今後ともご指導、ご鞭撻の程何とぞ宜しくお願い申し上げます。



大阪大谷大学薬学部
池尻 昌宏 46期(薬化)

2003年に博士課程を修了後、米国でのポストドクや徳島文理大学での助教職を経て、現在は6年制移行と共に新設された大阪大谷大学薬学部にて講師として勤務しています。この3月には6年制初の国家試験が行われ、

また第1期生も巣立っていきました。私が学生の頃とは薬学教育のスタイルも大きく変わり、4年生での共用試験や長期間の実務実習など、薬剤師としてのデビューに向けた様々なカリキュラムが組まれています。学生たちもその目標に向けて日々切磋琢磨しており、私も彼らの手助けができるよう、教育・研究に力を注いでおります。薬学教育に身を置く立場になって、改めて教えることの難しさを痛感すると共に、また、元気に巣立っていく姿を見て喜びも実感しております。皆様方も、薬学生や“わかば”薬剤師たちへの熱いエールをお願いいたします。



塩野義製薬株式会社
清田 浩平 院51期(分析)

2008年に入社し、薬物動態研究部門に配属されてから5年目を迎えました。

入社以来3年間、バイオアナリシスの業務に従事していましたが、グループの移動により、現在は薬物代謝を中心とした分析業務に携わっています。代謝物検索や代謝安定性の向上を目指した代謝位

置の推定、反応性代謝物の評価などが業務の中心で、探索から臨床研究段階まで幅広くカバーしています。担当したプログラムの薬が多角的に評価され、磨き上げられていく姿を目の当たりにすると、どうしても患者さんの喜ぶ姿が見たいと思ってしまう。しかしながら現状は厳しく、業務の中には従来のやり方では対応できない問題もあり日頃から最新の分析技術を積極的に導入し、または独自で開発しておく必要があります。日常業務をこなしながら新しい研究に挑戦することは骨が折れることですが、研究を楽しみながら日々挑戦しています。



塩野義製薬株式会社 臨床薬理
窪田 竜二 51期(薬効)

私は、2008年に博士後期課程を修了後、塩野義製薬で、臨床試験で得られた薬物の血中濃度の解析(PK解析)や曝露-応答関係の解析(PD解析)により、薬の特性を見極める仕事をしています。

入社してからの4年間、在学時に身につけたファーマコジェノミクスや薬への応答の個体差に関する知識を、薬を開発する立場で活かそうと日々臨床研究に取り組んできました。昨年、その成果をギリシャで行われたPAGEという学会で発表してきました。今年は韓国で行われるWCoPという学会で発表するため目下研究中です。

これからも、研究室で学んだ医薬品の用法・用量の個別適正化という志を胸に、画期的な新薬を一日でも早く患者さんに薬を届けられるように日々努力してまいります。



塩野義製薬株式会社 医薬研究本部
堀口 直剛 院52期(複合)

新薬の研究から開発、承認申請に至るまでのプロセスは長くかつ複雑ですが、研究職として製薬企業に入社して現在7年目を迎え、徐々にですが全体像が分かってきたと感じています。しかしながらその一方で、肝心の研究力に関しては、そのレベルアップを中々実感することができません。

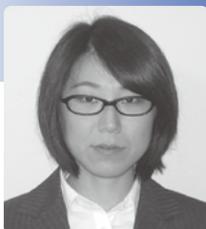
このような経緯から、「アカデミアにおける基礎研究を通じて研究力を高めたい、自分の研究力を試したい」という思いが強くなり、社会人博士後期課程に進学し、現在、再び薬物治療学分野にお世話になっています。「堀口君そりゃ無茶やで。」「よう勉強してきたとは思うけど全然面白くないわ。」「その研究プランでほんまに世界に勝てるんか?」と先生方からは厳しくも的確なご指導を頂きながら充実した研究生活を過ごしています。学業及び仕事の両立は大変ですが、胸をはって2度目の卒業を迎えることができるように頑張っていきたいと思っています。



塩野義製薬株式会社 創薬・探索研究所
樋口 直子 52期(薬理)

2006年に塩野義製薬へ入社して早6年が経ち、現在は顕微鏡組織化学の部署で創薬研究に携わっています。組織化学は一見地味ですが、顕微鏡を通して細胞のリアルな変化を観ることのできる、とても新鮮で魅力的な仕事です。多岐に渡る疾患の病態解析を手掛けつつ、最近では医薬開発部と海

外の治験申請に関わる最前線の仕事も担当させて頂きました。新薬を創製してグローバルに医療現場へ届けるミッションの重さがやっと見え始めてきた所です。また、勿論サイエンスベースで仕事を進めています。ビジュアルなデータを拠り所とするため、自らの感性を活かせる分野と感じます。何事にも興味を抱き、仕事以外でも自分の可能性を模索し続けています。折に触れ、人との繋がりや人間力が大事だと痛感します。恩師の馬場先生を始め、出会った多くの方々に感謝しつつ、昨年誕生した神崎川沿いの新研究棟で気分も新たに、繋がりを大切に日々研究に邁進しております。



国立医薬品食品衛生研究所 食品部 研究員
銅師 裕美 院53期(毒性)

私は、毒性学分野にて堤 康央教授(39期)にご指導賜り、平成22年3月に博士号を取得後、附属実践薬学教育研究センターの特任助教として平田 収正教授(院30期)の元、大学院教育改革推進プログラムに従事させて

いただいております。本年1月からは、国立医薬品食品衛生研究所に異動し、食品中の放射性物質に関する研究に従事しております。

現在の研究は食品の規制などに直結しており、研究成果が国民生活に与える影響の大きさを強く感じています。多くの先生方にご指導賜り、大阪大学薬学研究科で学んだことを基礎として、今後更に経験を積み、我が国の食品安全を守る使命感を持って研究に取り組んでいきたいと思っております。薬友会の諸先生方におかれましては、今後ともご指導、ご鞭撻賜れますよう宜しくお願い申し上げます。



シミック株式会社 CDM事業本部
田 雨時 院55期(薬情)

私は、2012年3月に大阪大学大学院薬学研究科博士後期課程を修了し、2012年4月よりシミック株式会社に勤務しております。現在、CDM事業本部に所属し、データマネジメント(DM)職として新薬の開発に携わっていく予定です。

社会人1ヶ月目は慣れないことばかりで大変なことも多々ありましたが、ビジスマナーをはじめ、社会人の基礎及び業務知識を学習しております。周りの方々にサポート頂きながら、少しずつ仕事の内容への理解を深めております。「よりよい薬をより早く患者さんへ」という会社の理念に共感し、これから、関連部署の方々と協力しながら、新薬の臨床試験業務に取り組んで行きたいです。

最後になりましたが、薬学研究科の益々のご発展を祈念し、近況報告とさせていただきます。



小野薬品工業 福井合成研究部
伊野 達徳 55期(製造)

私は学部4年次から博士前期課程までの3年間、機能素子化学講座(現:薬品製造化学)で有機合成を学び、2009年に小野薬品工業に入社後、福井合成研究部で医薬品の製造プロセス研究に携わっております。

プロセス研究とは、化学の力を駆使して新薬の候補化合物を工業生

産するための製造プロセスを創り出す研究です。実際にプロセスを組み立てて行く際には、大学の研究室で経験したことが大きく役立っております。自分たちで作上げたプロセスに従って製造された化合物を用いて前臨床試験や臨床試験が行われますので、責任があるとともに非常にやりがいのある仕事です。医薬品として患者さんの手に少しでも早く届けることが出来るよう日々奮闘しております。

福井にお越しの際には是非ご一報ください。お酒のお相手なら受けて立ちます!



マルホ株式会社
富安 諒介 56期(応環)

2010年3月に博士前期課程を修了し、マルホ株式会社に入社して丸2年が経ちました。

私は現在、モニターとして新薬の開発に関わっています。大学院では主に遺伝子工学

をやっておりましたので、会社に入るとその経験を直接的に活かす機会はないものと思っておりました。しかし、初めて担当になった試験で、検体のPCR検査で不具合が出たので手順を再検討したいということになり、チームで唯一PCRの経験があった私が検討メンバーに抜擢され、何事も一生懸命やっておくものだと感じた瞬間でした。現在は2つの試験で規模の大きな総合病院の担当を任されており、プレッシャーと次々と降ってくる難題に潰されそうな日々ですが、その分大きなやりがいを感じながら仕事をしています。



塩野義製薬株式会社 創薬・探索研究所
房前 裕順 56期(微生物)

2010年に博士前期課程を修了し、早くも丸2年が経ちました。今は、できたてほやほやの大阪の新研究所に勤めていますが、最初に配属された研究所は滋賀の南の果てにありました。電車は1時間に1本、見渡す限りの田んぼ、

冬の夜空には巨大なオリオン座が輝き、春には大量のスギやヒノキの花粉が猛威を奮います。そんな大自然の中、私は遺伝子改変マウスを作ることになりました。文字通り、マウスの受精卵にDNAを打ち込んだり、ES細胞からマウスを作ったりします。職人芸と言っても過言ではない操作に最初は戸惑いました。しかし、入社3年目の今、私もすっかり「マウス職人」になってしまいました。いつか、私の作ったマウスが病態モデルや創薬ターゲットの評価ツールとして役立ち、画期的な薬が作られる日を夢見ながら、今日もマウスと戯れています。



大阪大学微生物病研究所
元岡 大祐 院57期(物化)

私は高分子化学分野にて博士後期課程を修了後、2012年から大阪大学微生物病研究所にて、次世代シーケンサーを用いた迅速な感染症診断法の開発と応用に取り組んでいます。感染症発症時の臨床検体から、病原

体を単離することなく病原体由来核酸配列を網羅的に解析する、メタゲノム解析と呼ばれる手法を用いており、既知病原体だけでなく、未知病原体の検出も可能です。臨床検体中には病原体以外に、宿主や常在菌由来の核酸も存在し、「超」を意味する「メタ」が付くことから察せられるように、超大量の解析データと日々格闘しています。シーケンサーやコンピュータの目覚ましい進歩に負けないよう、より精力的に研究に取り組んでいきます。



JA愛知厚生連 安城更生病院 薬剤師・供給部門
野澤 孝子 58期(療薬)

私は2012年3月に大阪大学薬学部薬学科を卒業し、現在は愛知県の病院で薬剤師として勤務しています。

私がこの病院を志望した理由は、薬剤師が常駐している病棟薬剤室があり、薬剤師が患

者さんの身近な存在となることができることです。今はまだ調剤を中心とした業務を覚えることで精一杯ですが、大学で学んだ知識や技術を生かして、患者さんの役に立てるよう努力していきたいです。また、病棟で患者さんに対する際は長期実務実習で得られた経験や指導薬剤師の先生方に教えていただいたことを生かして、患者さんのところに寄り添い、支えられる薬剤師となれるようさらなる努力を重ねていきたいです。

新任教授紹介



大阪大学大学院薬学研究科
(高分子化学分野)
大久保 忠恭

昨年10月16日付けをもちまして、小林祐次名誉教授の後任として高分子化学分野の教授を拝命いたしました。この場をお借りいたしまして、薬友会の皆様方に一言ご挨拶を述べさせていただきます。

私は、昭和53年に大阪大学理学部化学科に入学後、引き続き大学院に進学し、京極好正先生のご指導を受け、理学博士号を取得しました。平成10年に、小林祐次先生が主宰される高分子化学分野の助教授として、本学の教育・研究に携わることになりました。この間、株式会社

蛋白工学研究所(昭和63から8年)、北陸先端科学技術大学院大学新素材センター(平成7から4年)においても研究を行ってきました。

私はこれまで、ペプチド、蛋白質、核酸等の生体分子の立体

構造決定と機能解明研究を続けており、学位論文ではNMRを用いた溶液中の生理活性ペプチドの立体構造決定法の開発を行い、現在は立体構造を基盤とした合理的創薬を目指して研究をしています。物理化学、構造生物学をベースとして創薬を目指した研究と教育を行うことは、かねてより望んでいたことでした。今後の薬学を考えると、原子・分子のレベルで生体分子の作用機構を明らかにして論理的に薬を作ることの重要性が、そしてその過程において物理化学的な考え方の重要性が非常に大きくなってきていると考えています。

これからは、高分子化学分野(旧薬品物理化学講座)の伝統を継承し、生活習慣病に関与するレセプター、染色体構造形成因子、プロスタグランジン合成酵素等の機能解明を進め、新たな方法論の開発も含めて大阪大学薬学研究科の発展に貢献できればと願っております。まだまだ弱輩の身でございますので、今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

田中 徹明 教授 最終講義・定年退任記念祝賀会の開催

田中徹明教授定年退任記念事業会事務局
好光 健彦



平成24年3月31日をもって定年退任されました薬品製造化学分野教授田中徹明先生の最終講義ならびに定年退任記念祝賀会が3月2日に行われました。

薬学研究科2号館特別講義室において行われた

「くすりは有機化合物である」と題する最終講義には、150名を超える大勢の方々にご来聴いただきました。最終講義では、薬学研究科長 小林資正先生のご挨拶と学務会議議長 八木清仁先生による経歴のご紹介に続き、田中先生の「ものづくりに興味をもって薬品製造学の門をたたいて以来」の長年にわたるご研究について、時折笑いを交えつつ明快にお話いただきました。「有機化学の力が人々を救うくすりの創製に欠かせない」という言葉で締めくくられた最終講義は、ご来聴の皆様を魅了したようでした。その後、松田敏夫先生に閉会の辞を頂き、和やかに最終講義を終えました。

最終講義終了後、千里阪急ホテルにて開催されました定年退任記念祝賀会におきましても多数の皆様にご臨席いただきました。まず、小林資正薬学研究科長の開会の辞に始まり、薬品製造学同窓会「一葉総会」会長・神戸薬科大学名誉教授 二宮一彌先生、大阪大学名誉教授 岩田宙造先生からご祝辞を賜りました。続いて、元富山医科薬科大学薬学部長 百瀬雄章先生に乾杯の御発声を賜り、歓談を挟んで、一葉総会同窓生として、近畿大学教授 村岡修先生、吹田市議会議員 池淵佐知子様、木村秀子様、そして旧職員として、京都大学教授 竹本佳司先生、大阪大谷大学教授 前崎直容先生、京都大学准教授 大野浩章先生よりお言葉をいただきました。その後、田中先生から皆様へ感謝の言葉が述べられ、最後に、元金沢大学副学長 花岡美代次先生より、田中先生の「忘己利他」の実践を通じた研究教育へのご貢献を讃えるお言葉を賜り、祝賀会は華やかに幕を閉じました。

お忙しい中、田中徹明先生定年退任記念事業にご賛同、ご臨席いただきました皆様、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

受賞の喜び

「第3回日本DDS学会奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科
分子生物学分野 准教授
櫻井 文教(特別会員)

この度、第27回日本DDS学会におきまして、「組織特異的かつ長期安定的な遺伝子発現を目指した新規アデノウイルスベクターの開発」に関する研究で、第3回日本DDS学会奨励賞を拝受いたしましたので、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

アデノウイルス(Ad)ベクターは、遺伝子導入ベクターとして多くの優れた特性を有していることから、基礎研究ならびに遺伝子治療臨床研究で汎用されております。しかし、Adベクターの問題点を克服し、有効性・安全性を向上させるためには、更なる改良が必要であると考え、私はまず、35型Adを基本骨格とする新規Adベクターを開発し、その遺伝子導入特性を明らかにいたしました。さらには、microRNAによる遺伝子発現制御システムを搭載したAdベクターの開発に成功いたしました。microRNAによる遺伝子発現制御システムを搭載したAdベクターは、内在性のmicroRNAを利用することで各組織における導入遺伝子の発現を自在に制御

可能であることから高い安全性を有しており、今後の遺伝子治療研究において有用な基盤ベクターになるものと期待されます。今回の受賞は、上述の新規Adベクターに関する一連の研究成果を評価していただいたものであり、本受賞を励みに更なる飛躍を目指して精進していく所存です。

最後になりますが、本研究は水口裕之先生(大阪大学大学院薬学研究科教授・39期)ならびに早川堯夫先生(近畿大学薬学総合研究所長・教授・院13期)にご指導いただき遂行したものであり、両先生に厚く御礼申し上げます。またこれまでに私が在籍しました国立医薬品食品衛生研究所、独立行政法人医薬基盤研究所、大阪大学大学院薬学研究科分子生物学分野の先生方や学生諸氏、また多くの共同研究者に心より感謝申し上げます。今後も遺伝子治療・核酸医薬研究ならびに薬学教育に精進して参りますので、皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

「平成23年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科
生命情報解析学分野 准教授
岡田 欣晃(46期)

この度、第61回日本薬学会近畿支部総会・大会におきまして、「DNAメチル化によるRobo4遺伝子の組織特異的発現の制御ーRobo4遺伝子はなぜ血管内皮細胞に特異的に発現するのかー」という研究課題で、日本薬学会近畿支部奨励賞を拝受致しました。

我々の体を構成するひとつひとつの細胞は全ての遺伝子が書き込まれたゲノム配列を持っていますが、各遺伝子は全ての細胞にはなく、それが必要とされる細胞にのみ発現します。今回我々は、この「組織特異的な遺伝子発現」がどのように調節されるのか、その不思議を解明すべく、血管にのみ発現するRobo4遺伝子を題材に研究を行いました。Robo4遺伝子の発現調節の仕組みを精査に解析したところ、近年急速に遺伝子発現への重要性が明らかになりつつあるゲノム構造レベルの遺伝子発現調節の仕組み(エピジェネティクス)がRobo4遺伝

子の発現調節に寄与することを発見しました。具体的には、エピジェネティクス制御の一つであるDNAメチル化が、遺伝子の発現をオン、オフするスイッチとして働くことで、組織特異的な遺伝子発現が生み出されるという、非常にユニークな調節の仕組みを発見することに成功しました。今後、本研究を更に発展させ、「組織特異的な遺伝子発現の不思議」の全容解明を目指すとともに、医療への応用の可能性についても模索していきたいと考えています。

この度の受賞は今後の研究活動への大きな励みとなりました。本受賞を糧に、更に一層の努力を重ね、質の高い研究成果を世界に発信していきたいと思っております。最後になりましたが、本研究を遂行するにあたり、ご指導を賜りました土井 健史教授をはじめとする諸先生方、ご協力を頂きました生命情報解析学分野の皆様にご心より感謝申し上げます。

「平成23年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



大阪大学大学院薬学研究科
生体機能分子化学分野 助教
渡利 彰浩(特別会員)

この度、第61回日本薬学会近畿支部総会・大会におきまして、「原がん遺伝子の機能進化から探る新たながん化メカニズムの解析」という演題で、日本薬学会近畿支部奨励賞を拝受致しました。

原がん遺伝子産物は厳密な制御を通して多細胞動物の発生や体制の維持に重要な役割を担っており、その破綻はがん発症の原因となる事が知られています。本研究は、多細胞動物への進化過程で機能変化を起こす原がん遺伝子を同定・解析することで新たながん化メカニズムの解明を試みた内容となっています。

この度の受賞により自らの研究成果を評価

して頂いたことは、今後の研究活動において大きな励みとなりました。これを機に、更なる飛躍を目指し精励していく所存です。

最後になりましたが、本受賞は大阪大学大学院薬学研究科生体機能分子化学分野の八木清仁教授、近藤昌夫准教授の御指導、御鞭撻を賜ることで成し得たものであり、また本研究を遂行するにあたり、多大なる助言を頂きました大阪大学微生物病研究所発癌制御研究分野の岡田雅人教授をはじめとする諸先生方、共同研究者の方々のおかげであると考えています。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

「平成23年度日本薬学会近畿支部奨励賞」を受賞して



近畿大学薬学部
化学療法学研究室 助教
松尾 一彦(54期)

この度、第61回日本薬学会近畿支部総会・大会におきまして「感染症予防対策に資する経皮ワクチン製剤(貼るワクチン)の開発」という演題で発表し、平成23年度日本薬学会近畿支部奨励賞を頂戴いたしました。この場をお借りしまして、薬友会の皆様にご報告申し上げます。

産業技術の発展によりボーダレス化した現代社会においてはヒト、動物、植物などの国家間の交流が盛んに行われています。これは各種疾病の原因となる病原体についても同様で、ある地域で発生した感染症は瞬く間に世界中に拡散し、世界的大流行(パンデミック)を引き起こすことが危惧されています。

このような感染症に対して唯一の根本的な予防手段となるのがワクチンです。しかしながら、現在実用化されているワクチンのほとんどは注射により投与されているために、痛みや注射針による二次感染の危険が伴います。また、注射の施行には医療技術者を必要とし、注射剤の輸送、保管にはコールドチェーンが不可欠であり、これらは実際にワクチンを最も必要としている貧困地域にワクチンが浸透しにくい原因と

なっています。さらに注射投与型ワクチンでは、パンデミック発生時にワクチンの大規模接種を迅速に施行できないことも欠点として挙げられています。

そこで我々は注射に代わる新規剤形ワクチンとして独自の皮膚内溶解型マイクロニードルを応用した経皮ワクチン製剤(貼るワクチン)の開発研究を推進しています。今回の発表では、動物実験において我々の貼るワクチンが従来の注射投与型ワクチンと同等以上の有効性を発揮することを報告いたしました。現在、本貼るワクチンはヒトにおける安全性および有効性を検証する臨床研究を実施しており、次世代のワクチン創製に大きく貢献するものと期待しています。

最後になりましたが、本発表内容は、私が大阪大学大学院薬学研究科薬剤学分野に在籍中の研究成果であり、終始暖かいご指導・ご鞭撻を賜りました大阪大学大学院薬学研究科教授 中川晋作先生、同研究科 准教授 岡田直貴先生を始めとする諸先生方、ならびに多くの共同研究者の方々に心より感謝申し上げます。

受賞者紹介

他の受賞について紹介させていただきます。

石橋 弘行 19期 金沢大学大学院自然科学研究科薬学系 機能性分子設計学研究室

学会名：日本薬学会
課題名：ラジカル環化反応を基盤とするアルカロイドの合成
賞の名前：日本薬学会賞
受賞日：平成24年3月28日

河内 崇志 56期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程3年

学会名：日本がん分子標的治療学会 第15回学術集会
課題名：低酸素環境選択的がん細胞増殖阻害物質 furospinosulin-1 の作用メカニズムと構造活性相関
賞の名前：優秀ポスター賞
受賞日：平成23年6月24日

小島 直人 47期 京都薬科大学 講師

学会名：日本がん分子標的治療学会
課題名：パンレイシコアセトゲニン類をリードとする新規抗腫瘍活性物質の創製
賞の名前：平成22年度日本がん分子標的治療学会研究奨励賞
受賞日：平成23年6月23日

山本 剛史 院57期 大阪大学大学院薬学研究所 助教

学会名：38th International Symposium on Nucleic Acid Chemistry
課題名：Evaluation of Efficacies of BNA-modified Anti-PCSK9 Antisenses
賞の名前：Outstanding Poster Presentation Award
受賞日：平成23年11月9日

吾郷 由希夫 49期 大阪大学大学院薬学研究所 助教

学会名：The 2nd Congress of Asian College of Neuropsychopharmacology (AsCNP)
課題名：Role of brain metabotropic glutamate 2/3 receptors in social isolation-induced depressive behavior of mice
賞の名前：Fellowship Award
受賞日：平成23年9月23日

学会名：The XVI International Symposium on Atherosclerosis (ISA2012)

課題名：Bridged nucleic acid-based antisense therapeutics targeting PCSK9 reduced serum LDL-cholesterol levels of mice fed a diet in high cholesterol
賞の名前：IAS Early Career Poster Awards V
受賞日：平成24年3月28日

日高 伸之介 院53期 国立大学法人 鹿児島大学 医学部・歯学部附属病院 薬剤部

学会名：日本化学会情報化学部会
課題名：3次元構造記述子を用いた環境毒性予測
賞の名前：Journal of Computer Aided Chemistry 論文賞
受賞日：平成23年11月13日

山崎 淳史 57期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程2年

学会名：第54回日本神経化学学会大会
課題名：マウスES細胞からのin vitro セロトニン神経分化の評価系の構築：I型BMP受容体キナーゼ阻害の重要性
賞の名前：第54回日本神経化学学会大会 大学院優秀発表賞
受賞日：平成23年9月28日

庄司 正樹 55期 徳島文理大学薬学部 助教

学会名：第27回日本DDS学会
課題名：注射型DNAワクチンによる腸管粘膜免疫活性化に関する検討
賞の名前：優秀発表者賞
受賞日：平成23年6月10日

東 信太郎 57期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程2年

学会名：日本薬理学会年会
課題名：ミトコンドリア融合阻害因子HPGBはマイトファジーを促進する
賞の名前：第85回日本薬理学会年会 年会優秀発表賞
受賞日：平成24年3月16日

高橋 梓 院55期 大阪大学大学院薬学研究所 特任助教

学会名：Experimental Biology 2012
課題名：Preparation of a dual claudin binder using a fragment of Clostridium perfringens enterotoxin
賞の名前：The Division for Drug Discovery, Development and Regulatory Affairs (DDRA) of The American Society for Pharmacology and Experimental Therapeutics (ASPET) Young Investigator Award Third Place
受賞日：平成23年4月10日

高山 和雄 58期 大阪大学大学院薬学研究所博士前期課程2年

学会名：第26年会日本薬物動態学会
課題名：EFFICIENT GENERATION OF MATURE HEPATOCYTES FROM HUMAN PLURIPOTENT STEM CELLS BY HNF4 α TRANSDUCTION
賞の名前：ベストポスター賞
受賞日：平成23年11月20-22日

桜井 佑介 55期 塩野義製薬株式会社 医薬研究センター創薬・疾患研究所

学会名：日本薬学会薬理系薬学部会
課題名：膵組織の恒常性維持および障害保護におけるPACAP-RegIII β バスウェイ
賞の名前：次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2011 優秀発表賞
受賞日：平成23年8月31日

島岡 恵里 58期 アステラスリサーチテクノロジー(株)

学会名：アンチセンス・遺伝子・デリバリーシンポジウム 2011
課題名：「アデノウイルスベクターによるオートファジー誘導とオートファジーが遺伝子発現に及ぼす影響に関する検討」
賞の名前：奨励賞
受賞日：平成23年9月2日

松久 幸司 56期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程3年

学会名：第58回トキシシンポジウム
課題名：Clostridium perfringens enterotoxin を利用したドラッグデリバリーシステムの開発
賞の名前：若手奨励賞
受賞日：平成23年7月7日

廣部 祥子 58期 大阪大学大学院薬学研究所 博士課程1年

学会名：ファーマバイオフォーラム2011
課題名：皮膚内溶解型マイクロニードルを用いた貼るワクチンの実用化に向けて
賞の名前：優秀発表者賞
受賞日：平成23年11月7日

幡生 あすか 58期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程1年

学会名：第34回情報化学討論会
課題名：サポートベクターマシンによる疾患分類
賞の名前：ポスター賞
受賞日：平成23年11月13日

家門 拓麻 58期 中外製薬株式会社 鎌倉研究所

学会名：第41回複素環化学討論会
課題名：カイニン酸の全合成
賞の名前：優秀ポスター賞
受賞日：平成23年10月21日

学会名：第37回反応と合成の進歩シンポジウム
課題名：カイニン酸の全合成
賞の名前：優秀発表賞
受賞日：平成23年11月8日

須賀 友規 58期 旭化成株式会社

学会名：第31回有機合成若手セミナー
課題名：蛍光標識化アセトゲン類の収束的合成法の開発とその細胞内動態
賞の名前：優秀研究発表賞
受賞日：平成23年11月16日

姫澤 由佳 58期 株式会社オーパス サエラ薬局

学会名：第61回日本薬学会近畿支部大会
課題名：黄砂現象とともに飛来する微生物の可視化
賞の名前：第61回日本薬学会近畿支部大会ポスター賞
受賞日：平成23年10月22日

大竹 和樹 58期 日本たばこ産業株式会社 医薬総合研究所 化学研究所

学会名：第41回複素環化学討論会
課題名：オキセタン-3-オンの新規合成法の開発とその修飾
賞の名前：最優秀ポスター賞
受賞日：平成23年10月20日

平松 直樹 58期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程1年

学会名：The 2nd Congress of Asian College of
課題名：Neuropsychopharmacology (AsCNP)
Involvement of 5-HT1A receptors in fluvoxamine-induced
enhancement of prefrontal dopamine release
賞の名前：JSNP Excellent Presentation Award for AsCNP 2011
受賞日：平成23年9月23日

太田 友樹 58期 大阪大学大学院薬学研究所 博士後期課程1年

学会名：第54回日本神経化学学会大会
課題名：神経型一酸化窒素合成酵素阻害剤 7-nitroindazole は 6-hydroxydopamine
神経障害 ラットにおいて L-DOPA 誘発ジスキネジアの形成を抑制する
賞の名前：大学院優秀発表賞
受賞日：平成23年9月27日

学会名：6th International Conference on Na⁺/Ca²⁺ Exchange 2011
課題名：The role of Na⁺/Ca²⁺ exchanger in nitric oxide-induced
apoptotic-like cell death in neuroblastoma SH-SY5Y cells
賞の名前：Fellowship Award
受賞日：平成23年10月4日

虎谷 祐伊 58期 中外製薬株式会社 医薬安全性本部 ファーマコビジランス部

学会名：第61回日本薬学会近畿支部総会・大会
課題名：ストレス負荷によるマウス脳機能への影響の行動薬理学的解析
賞の名前：ポスター賞
受賞日：平成23年10月22日

勢力 薫 59期 大阪大学薬学部5年生

学会名：日本薬学会薬理系薬学部会
課題名：樹状突起スパインの形成・成熟における PACAP の作用
賞の名前：次世代を担う創薬・医療薬理シンポジウム2011 優秀ポスター賞
受賞日：平成23年8月31日

平成23年度薬学部創立50周年記念国際化推進事業

「大学院生海外派遣」採択者一覧

※辞退、インフルエンザによる渡航中止除く

修士課程2年 町谷 充洋

目的：American Society of Gene & Cell Therapy, 14th
Annual Meeting 2011にて口頭発表を行う
会議期間：H23.5.18~H23.5.21
派遣先：アメリカ

博士後期課程1年 鈴木 英彦

目的：The 12th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

修士課程2年 高山 和雄

目的：The 10th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

博士後期課程2年 三上 統久

目的：The 7th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

修士課程2年 町谷 充洋

目的：The 11th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

博士後期課程2年 松井 勇人

目的：The 9th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

博士後期課程1年 東阪 和馬

目的：The 8th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

博士後期課程2年 稗田 はつき

目的：The 13th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical
Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
会議期間：H23.6.2~H23.6.4
派遣先：韓国

博士後期課程2年 山下 朋美

目的：The 7th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
 会議期間：H23.6.2～H23.6.4
 派遣先：韓国

修士課程2年 太田 友樹

目的：6th International Conference on Sodium Calcium Exchangerにてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.10.1～H23.10.5
 派遣先：イタリア

博士後期課程3年 吉川 舞

目的：The 7th Seoul-Kyoto-Osaka Joint Symposium on Pharmaceutical Sciences for Young Scientistsにて口頭発表を行う。
 会議期間：H23.6.2～H23.6.4
 派遣先：韓国

修士課程2年 中村 勇斗

目的：第6回中韓日生薬学合同シンポジウムにてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.10.20～H23.10.22
 派遣先：中国

修士課程2年 高山 和雄

目的：International Society for Stem Cell Research 9th Annual Meetingにてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.6.15～H23.6.18
 派遣先：カナダ

博士後期課程2年 片岡 駿介

目的：Neuroscience2011にてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.11.12～H23.11.16
 派遣先：アメリカ

薬学科6年 山田 麻由

目的：第15回生物無機化学国際会議(ICBIC)にてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.8.7～H23.8.12
 派遣先：カナダ

博士後期課程2年 荒木 良太

目的：Neuroscience2011にてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.11.12～H23.11.16
 派遣先：アメリカ

修士課程2年 宮本 正芳

目的：第15回生物無機化学国際会議(ICBIC)にてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.8.7～H23.8.12
 派遣先：カナダ

博士後期課程2年 山下 朋美

目的：American Heart Association's Scientific Sessions 2011にてポスター発表を行う。
 会議期間：H23.11.12～H23.11.16
 派遣先：アメリカ

平成24年度大阪大学薬学部卒後研修会のご案内

薬学部6年制教育がスタートして6年が経ち、薬学部出身者に寄せられる期待は益々大きくなってきております。本研修会では薬学関係者として各方面で活躍しておられる卒業生に、最先端の医薬・医療情報を提供することを目的としております。日常生活や仕事の面で本研修会が皆様のお役に立てば幸いです。多数のご参加をお待ちしております。

主題：『薬学研究の最前線』

回	日時	講師	演題
1	6月9日(土) 14:30～16:30	山口 明人先生 大阪大学産業科学研究所 生体情報制御学研究室(所長・教授)	異物排出タンパクと多剤耐性菌感染症
2	7月7日(土) 14:30～16:30	中山 博之先生 大阪大学大学院薬学研究科 臨床薬効解析学分野(准教授)	新規慢性心不全治療薬の開発に何が必要か？ -β遮断薬を超えて-
3	8月4日(土) 14:30～16:30	櫻井 文教先生 大阪大学大学院薬学研究科 分子生物学分野(准教授)	がん細胞で増えるウイルス 一腫瘍溶解性ウイルスで癌細胞をやっつけろ
4	9月8日(土) 14:30～16:30	山下 伸二先生 摂南大学薬学部 薬剤学研究室(教授)	体の中の薬の動きが見える！ ～分子イメージング技術を利用した動態解析～
5	10月13日(土) 14:30～16:30	岡部 勝先生 大阪大学微生物病研究所附属生体応答遺伝子解析センター 遺伝子機能解析分野(教授)	遺伝子操作動物を使って受精の神秘を探る
6	1月19日(土) 14:30～16:30	土井 健史先生 大阪大学大学院薬学研究科 生命情報解析学分野(教授)	分子標的治療薬とエピゲノム創薬
7	2月23日(土) 14:30～16:30	川端 健二先生 医薬基盤研究所 幹細胞制御プロジェクト(プロジェクトリーダー)	幹細胞研究を創薬へ役立てるには？

会場：大阪大学中之島センター (<http://www.onc.osaka-u.ac.jp/>)

第1,3,4回 3階講義室304
 第2回 4階講義室406 (本年度より講義室の名称が変更になりました)
 第5,6,7回 7階講義室703

※尚、都合により会場が変更になる場合があります。必ず、下記の大阪大学薬友会ホームページにてご確認の上、ご参集下さい。多数のご来場をお待ちしております。

参加費：無料(直接会場へお越し下さい)

※日本薬剤師研修センター認定集合研修(1単位)

※大阪府薬剤師会薬剤師生涯教育認定研修

(認定ご希望の場合は新薬剤師章をご持参下さい)

世話人：

木村 以都美 (qqnp5xp9k@sand.ocn.ne.jp)

北澤 恵子 (kitazawa48@nifty.com)

北井 由美子 (sykr3129@agate.plala.or.jp)

照井 篤子 (terui-ya@hi2.enjoy.ne.jp)

小比賀 聡 (大阪大学薬学研究科 obika@phs.osaka-u.ac.jp)

水口 裕之 (大阪大学薬学研究科 mizuguch@phs.osaka-u.ac.jp)

詳しくは大阪大学薬友会ホームページ (<http://www.phs.osaka-u.ac.jp/homepage/yaku/>) をご覧下さい。

平成24年度 大阪大学大学院薬学研究科 公開講座:くすりと医療のご案内

テーマ:『変化する社会情勢・医療環境に対し、薬剤師は何ができるか?』

■目的: 2006年度から薬学部6年制が導入され、薬剤師、薬学研究者の専門的かつ幅広い知識が益々必要とされています。本講座では、「くすりと医療」をテーマに、基礎から臨床までの最新の知見をもとに、現在の課題と将来への展望について、最先端の分野で活躍する研究者が講述します。特に今年度は、昨年の福島第一原発の事故以来、社会的に大きな関心を集めている“放射線”と、近年目覚ましい進歩を遂げている“臓器再建”に焦点を絞り、それぞれの分野の最前線で活躍されている先生方にご講義頂き、それぞれの分野に対し薬剤師がどのように貢献していけるかを議論していきたいと考えております。多数ご参加賜りますようお願い申し上げます。

■日時: 平成24年11月10日(土)および12月1日(土) 各日13:00~18:00

■場所: 大阪大学大学院薬学研究科2号館特別講義室

■演題および講師 【座長: 水口裕之・櫻井文教・立花雅史(大阪大学大学院薬学研究科)】

回	日時	講師	演題
1	11月10日(土) 13:00~14:30	瀬尾 雄二先生 (大阪大学医学部附属病院 放射線治療科)	がん放射線治療と薬物療法の相互作用
	11月10日(土) 14:45~16:15	樺田 尚樹先生 (国立保健医療科学院 生活環境研究部)	低線量放射線の健康影響
	11月10日(土) 16:30~18:00	赤松 憲先生 (独立行政法人日本原子力研究開発機構)	放射線DNA損傷・修復科学の基礎と最近の話題
2	12月1日(土) 13:00~14:30	宮井 一郎先生 (社会医療法人大道会 森之宮病院)	神経リハビリテーションにおける機能回復促進の方法論の進歩
	12月1日(土) 14:45~16:15	山田 裕二先生 (兵庫県立尼崎病院 泌尿器科)	膀胱摘出術後の排尿について
	12月1日(土) 16:30~18:00	東川 雅彦先生 (大阪府済生会中津病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)	きこえを取り戻すー耳鼻咽喉科での取り組みについてー

■対象者: 本講座は大阪大学に限らず広く薬学部卒業生、薬剤師(開局、勤務を問わない)、製薬企業勤務者等、薬に関する基礎知識を有する方が対象ですが、一般の方でも本講座に関心のある方の参加を歓迎します。なお、本講座は日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度対象講座及び大阪府病院薬剤師会(OHP)生涯研修制度認定対象講座です。

■申込方法: 公開講座の受講料や申込期間等の詳細は近日中に、ホームページ等でアナウンスしますが、ご不明な点は下記にお問い合わせください。
大阪大学薬学研究科庶務係 Tel. 06-6879-8144(直通) 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘1-6

■主催: 大阪大学大学院薬学研究科

大阪大学大学院薬学研究科主催 薬剤師キャリアアップレクチャー2012 開講のお知らせ

大阪大学大学院薬学研究科主催で専門領域のキャリアアップのための、講義と実習を組み合わせたレクチャーを8月25日より開講致します。

レクチャーの目的:先進医療を支えるゲノム薬理学、臨床医学工学などの基礎から応用までを、少人数制の講義と演習で学ぶことにより、臨床現場で活用できる薬剤師を養成することを目的としています。

参加可能人数: 若干名 参加費・テキスト代: 無料
時間: 各日とも午後2時開始、午後6時終了予定です。

会場: 大阪大学薬学部
(詳細は大阪大学薬学部ホームページにて、ご確認ください)

年月日	レクチャーの内容	講師	参加可能人数
2012年8月25日(土)	がん最新機器分析	宇野公之・原田和生	15名まで
2012年9月22日(土)	ガン治療と循環器障害	藤尾 慈	100名まで
2012年10月13日(土)	癌免疫療法	中川晋作・岡田直貴	50名まで
2012年11月17日(土)	ガン治療のリスクマネジメント	上島悦子	50名まで
2012年12月22日(土)	ガン医療統計学	高木達也	25名まで
2013年1月19日(土)	C型肝炎と肝がん	八木清仁	100名まで

・日本薬剤師研修センターの認定が受けられます。

なお、日程などは若干変更となることがありますので、ご了承下さい。

詳しくは大阪大学薬学部ホームページをご確認ください。

寄付および終身会費納入者一覧

薬友会では48期生以降については終身会費制をとっていますが、それ以前の卒業生には、会費に代わってご寄付をいただくことしております。下記の一覧は2011年5月10日より2012年4月30日の間に終身会費とご寄付をいただいた方です。ご寄付いただいた会員諸兄弟にお礼申し上げますと共に、引き続き広くご協力をお願いいたします。なお寄付は1口5,000円とし、同封の振込用紙でお送り下さいますようお願いいたします。また、終身会費をこれまで支払われていない方は、この機会に是非お納め下さい。

終身会費納入者

吉岡靖雄(47)	石原理絵(59)	野出純一(59)	東本祐佳(60)	関谷有紀子(64)	山口賢彦(院55)	伴野由季(院58)
徐菲(55)	市橋宏一(59)	濱田智仁(59)	開菜摘(60)	常井彩加(64)	山下琢矢(院55)	恵利川由美(院59)
尾形勝弥(56)	植野志穂(59)	前田祐香(59)	平田景祐(60)	新田康平(64)	山野喜(院55)	大垣恵理華(院59)
吉田徳幸(56)	宇治美由紀(59)	眞下雅貴(59)	榭田恵理(60)	橋本里菜(64)	吉川舞(院55)	櫛淵あゆむ(院59)
板倉知広(58)	円丁直樹(59)	松村基弘(59)	松田温子(60)	樋口桃子(64)	吉田孟史(院55)	栗岡昌利(院59)
大竹和樹(58)	小椋健正(59)	山根誠司(59)	宮崎大貴(60)	前河直樹(64)	片岡駿介(院56)	香谷康幸(院59)
岡本英揚(58)	小田知佳(59)	青山道彦(60)	森宣瑛(60)	榭中このみ(64)	清水かほり(院56)	佐藤宏祐(院59)
金崎聡一郎(58)	加島聖史(59)	安東翔平(60)	安原由樹(60)	三浦大樹(64)	平石恭大(院56)	佐藤陽紀(院59)
更家信(58)	小泉温史(59)	井上希(60)	吉村一樹(60)	宗森友江(64)	深草俊輔(院56)	平茉由(院59)
志賀遼太(58)	小玉牧子(59)	宇高麻子(60)	藤倉有沙(61)	桜井晴奈(院51)	丸井勇人(院56)	高橋秀樹(院59)
中村亘(58)	寿悠太郎(59)	大塚梨沙(60)	西山早紀(61)	田代克久(院52)	松野孝浩(院56)	竹島亜季(院59)
成井信博(58)	小宮山祐美(59)	岡田遼(60)	山本梨加(61)	長野一也(院53)	矢原愛子(院56)	中川徹也(院59)
濱谷辰斗(58)	阪野文哉(59)	奥野紘子(60)	針田奈央子(62)	鍋師裕美(院53)	齋宮加奈恵(院57)	永野貴士(院59)
平井敏郎(58)	富田恭子(59)	叶拓也(60)	大住康晃(63)	山口朋子(院53)	大森美幸(院57)	西内翠(院59)
廣部祥子(58)	鳥居里衣(59)	鎌田泰正(60)	藤田定士(63)	赤瀬貴憲(院55)	畑勝友(院57)	堀内正子(院59)
古屋剛(58)	長澤沙弥(59)	國枝章義(60)	松本紘和(63)	後藤英子(院55)	久野周一(院57)	松本美保(院59)
町谷充洋(58)	中嶋一裕(59)	重岡大介(60)	氏家和紀(64)	庄司正樹(院55)	若松真太郎(院57)	三里一貴(院59)
松下知世(58)	中本小百合(59)	高木秀行(60)	梅原千晶(64)	高橋梓(院55)	川端洋輝(院58)	森河朋彦(院59)
山田麻由(58)	中山大輔(59)	中川岳志(60)	加藤千晴(64)	能島梢司(院55)	宅間祐太郎(院58)	柳澤有紀(院59)
浅野宏治(59)	仁木一順(59)	野尻奈央(60)	坂上俊(64)	村田三郎(院55)	南條有紀(院58)	

寄付納入者

稲津邦平(2)	福永富子(6)	西田陽子(9)	西原照代(15)	井内好美(20)	杉山佳乃(28)	尾崎朋久(院47)
金田方子(2)	小井田雅夫(7)	西村豊子(9)	相坂暁(16)	西田春昭(20)	赤井周司(30)	大野友道(院50)
小村典子(3)	西島真森(7)	松本弘子(9)	岡上伊都子(16)	森久美子(20)	迫由加里(30)	稲村充(院54)
松岡朝生(3)	川端常樹(8)	川路晴子(10)	鶴田康則(16)	井上光枝(21)	力石正子(30)	赤瀬貴憲(院55)
森田佐多子(3)	門河浩子(9)	澤井弘行(11)	植木明廣(17)	斎藤勝久(21)	嶋中純子(35)	荒井雅吉(特別)
岩崎依久子(4)	河合令子(9)	塩出哲生(11)	三浦貞彦(17)	平松薫(23)	小杉三紀子(36)	大久保忠恭(特別)
竹田イサ子(4)	杉本和(9)	吉田紀子(11)	山内妙子(17)	小野恵子(24)	野田昌邦(37)	仮家公夫(特別)
藤山朗(4)	瀬戸義子(9)	西原力(12)	木口敏子(18)	竹内純子(24)	溝口正(院6)	櫻井文教(特別)
佐々木清司(5)	武知ハルミ(9)	松本佐市(12)	中本伸子(18)	友田嘉一(24)	井上俊光(院19)	藤尾慈(特別)
小花常子(6)	中西勤(9)	真弓忠範(12)	吉村由美(18)	今西一郎(25)	須本國弘(院19)	宮本和久(特別)
中川晋(6)	永野和子(9)	才木寿朗(14)	吉村義信(18)	秋田敬子(27)	山脇範彦(院34)	

平成24年度薬学部および薬学研究科学生在籍数(平成24年4月1日現在)

薬学部								
	定員	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	計
薬学科	25	25	26	28	25	25	25	154
薬科学科	55	57	62	67	62			248
計	80	82	88	95	87	25	25	402

薬学研究科									
	修士課程(博士前期)				博士課程(博士後期)				
	定員	1年生	2年生	計	定員	1年生	2年生	3年生	計
創成薬学専攻	75	74	85	159	20	22	0	0	22
医療薬学専攻					10	5	0	0	5
分子薬科学専攻					10	0	7	10	17
応用医療薬科学専攻					14	0	10	25	35
生命情報環境科学専攻					8	0	1	3	4
計		74	85	159		27	18	38	83

研究生	
学部	大学院
3	4

平成23年度卒業者の進路

	卒業者総数	進学	企業	病院	官公庁	その他
薬科学科	60	55	1	0	0	4
薬学科	23	2	15	4	1	1
博士前期	75	20	44	1	2	8
博士後期	21	0	13	0	6	2

薬友会役員名簿

会 長	萬年成泰(9)		
副 会 長	眞弓忠範(12)	鶴田康則(16)	大江方二(16)
理 事	馬場明道(17)	戸谷治雅(23)	
	今西 武(15)	鍋島俊隆(16)	植木明広(17)
	北澤恵子(17)	掛樋一晃(18)	佐伯とも子(18)
	向井睦子(18)	岡部 勝(19)	山村倫子(20)
	米田真理子(20)	那須正夫(21)	西川 修(21)
幹 事 長	小林資正(22)	八木清仁(24)	上島悦子(25)
	土井健史(27)	池淵佐知子(27)	水口裕之(39)
	研究科長・学部長(堤 康史(39))		
	大阪大学薬学研究科・薬学部全専任教授		
	(庶務担当: 藤岡弘道(23)、 会計担当: 橋本 均(特))		
幹 事	(名簿担当: 小比賀聡(38)、 広報誌担当: 中川晋作(特))		
監 事	田中慶一(13) 山下治夫(13)		
名 誉 会 長	林 信一(1)		
最 高 顧 問	近藤雅臣(2)		
顧 問	新田進治(2)		
名 誉 理 事	浜 堯夫(2) 抱 忠男(2) 藤井正美(2)		
	松本光夫(2) 岩田宙造(6) 奥田順三(9)		
	西原 力(12)		

()内の数字は期数

薬友会だよりに掲載したい原稿がございましたら、中川晋作 (e-mail : nakagawa@phs.osaka-u.ac.jp) までお送りください。